

付言事項の文例集

＜付言事項①＞ 遺留分減殺請求権を行使しないように希望を書く

私が〇〇〇〇に遺贈寄付する理由は、子どもの人身売買の被害から子どもたちを救う団体を応援したいと考えたからです。以前から少しずつ寄付をしてきましたが、人生の最期にあたり、多少なりとも財産が残っているでしょうから、その一部を遺贈寄付することにしました。相続人の中には、遺産の配分が少ないと感じる方もいるかもしれませんが、私の遺言の趣旨を汲み取っていただき、遺留分の減殺請求をしないようにお願いします。

＜付言事項②＞ 生前贈与をしていたので配分を少なくした

平成〇〇年頃に長男〇〇が自宅を購入した際に、私は〇〇〇万円を贈与しました。私はこの生前贈与を考慮して、この遺言でこのような財産配分としました。また、以前から支援している〇〇〇〇に遺贈寄付することにしました。熟慮のうえでの配分ですので、皆さん気持ちよく受け取ってください。

＜付言事項③＞ 遺言執行者を定めた

最後に一言申し添えます。私亡き後の財産については、その一部を、長くお世話になっている〇〇〇〇に遺贈寄付することにしました。私の気持ちを理解していただき、皆さんが仲良く暮らすよう希望します。また、遺産相続手続きがスムーズに行くように、遺言執行を〇〇さんに頼みました。事情も説明していますので、信頼して任せるようにしてください。

＜付言事項④＞ 教育者が学校に遺贈寄付

以上のような遺言の内容にした理由を少し説明します。現職中は学生の教育に一所懸命に携わってきました。そこで出会った方々に大変可愛がられ、本当に幸せに働くことでできました。このような職場を与えていただいた〇〇大学に、わずかではありますが寄付をしたいと思います。相続人の皆さまには、私の思いをご理解いただきたいと存じます。

<付言事項⑤> 地域のために役立てて欲しい

私は会社を退職後、町内会やボランティアの活動に力を入れてきました。老後の生活費で財産は減っていると思いますが、私が亡くなった時に残った財産から少しばかりですが、〇〇コミュニティ財団に遺贈寄付したいと考えました。この地域の人たちが暮らしやすくなるように、役立ててください。

<付言事項⑥> 子どもの貧困問題の解決に、できれば冠基金で

子どもの貧困問題には心を痛めておりましたが、その問題に取り組んでいる公益財団法人〇〇〇〇に私の財産の一部を遺贈寄付したいと思います。私の財産の大半は両親の相続で受け取ったものです。私は生涯独身でしたので、私が亡くなると私の実家〇〇家の姓は消えてしまいます。できれば、寄付した資金は〇〇基金として名前を残してもらえると嬉しいです。

<付言事項⑦> お世話になっている障害者施設に遺贈寄付

私の遺産は妻と知的障害のある長男に相続させるほか、ほんの一部ですが、長男がお世話になっている社会福祉法人〇〇〇〇に遺贈寄付することにしました。皆さまのおかげで幸せな一生を送れましたことを感謝しています。ありがとうございました。